

第6回宇都宮市上下水道事業懇話会 議事録

■ 日 時

令和4年11月25日（金） 午前10時00分～午前11時35分

■ 会 場

宇都宮市上下水道局 5階会議室

■ 出席者

- ・ 委 員：太田正委員，小島弘義委員，齊木真理子委員，福嶋政江委員，三宅徹治委員，山岡暁委員（50音順）
- ・ 局 側：上下水道事業管理者，経営担当次長，技術担当次長，経営企画課長，経営担当主幹，企業総務課長，サービスセンター所長，工事受付センター所長，水道管理課長，水道建設課長，下水道管理課長，下水道建設課長，水質管理課係長，技術監理室検査監，事務局職員

■ 傍聴者数

2 名

■ 会議経過

1 開 会

2 懇 話

- (1) 第2次宇都宮市上下水道基本計画改定計画（素案）について
事務局より，資料1に基づき説明

E 委 員： 柱2「災害に強い上下水道の確立」について，市民との協働による流出抑制という記載があるが，具体的にどのようなことか。

事 務 局： 民有地等への雨水貯留施設設置を促進しており，具体的には貯留タンク，浸透ます，トレンチの設置費用の約3分の2を補助している。今後も，世論調査等の意見を分析しながら効果的なPRをしていく。

E 委員： 財政状況が厳しい中、公助だけでなく、災害対策を自助・共助で行う取組を強化していくことが大切だと思う。上下水道局からよくPRして、市民に協力していただけるよう取り組んでほしい。

事務局： 補足として、計画素案の44ページに記載のとおり、総合的な雨水対策の推進のため「宇都宮市総合治水・雨水対策推進計画」を作っており、上下水道局では内水ハザードマップを新たに作成したところである。E委員の意見のとおり、災害対策については、上下水道局でも非常に重要な施策と考えており、充実した施策を実施していく考えである。

B 委員： 市民の協力によって達成できる施策だが、市民の意識は低いと思う。どのように市民に水の大切さを意識してもらうか、PRをどのようにしたらいいかを考えてもらいたい。

A 委員： 雨水貯留施設の設置を市民にPRしているということだが、現在どれくらい家庭で利用されているのか。今後どのように設置数を増やしていくのかが課題だと思う。令和元年の台風19号以来整備が進んでいる田んぼダムや貯水池は流出抑制の効果が期待できると思うが、雨水貯留施設の取組はどれくらい効果があるのか。

事務局： 平成14年から約1,500件の補助申請を受けている。台風19号以前は年間約80基の申請数であったが、制度を拡充し、翌年には年間約250件の申請があった。今後は、年間300基の設置を目標にPRを行っていく。

A 委員： 田んぼダムなどはプール数杯、数十杯分の効果があると聞いているが、各家庭の貯留施設ではそれほど期待ができないのではないかな。

事務局： 貯留タンクの場合、1基あたり200～300Lの効果がある。また、浸透ますの場合、どれくらい流出抑制が出来ているかという具体的な数値はないが、コンクリートや建物となってしまった部分を都市化が進む前の状態に戻すような効果がある。

座長： 雨水貯留施設により、どれくらい流出抑制の効果があるのか示すことはできるか。

事務局： 推進計画には年間300基という数値目標はあるが、具体的な実施効果の数値は盛り込んでいないため、今後検討していく。

B 委員： 田んぼダムについて、益子町で農業をしているが、若者は農業をやらなため田んぼが放置され、荒地地になっている姿が見受けられる。水害がひどい原因は山が減っていることにもあると思う。自然の保全についてよく考えてもらいたい。

- 座長： 自然環境の保全について、基本計画ではどのように受け止めているか。
- 事務局： 地球温暖化などの問題も水害の一因であると考えており、環境負荷低減の取組を行っていく。
- D 委員： 水道の財政見通しについて、収益的収入のうち給水収益がほとんどだと思うが、それ以外にはどのようなものがあるか。また、今年度実施の料金減免について、一般会計からの繰入はあるのか。
- 事務局： 今回の料金減免について、一般会計からの繰入は予定しておらず、内部留保資金から実施したものである。また、給水収益以外には一般会計負担金等の収入があるが、水道事業会計では一般会計負担金の額は小さく、財政見通しに大きな影響は与えていない。
- C 委員： 市民意識調査について、自分は見ることがない。どのように実施しているのか。紙面で実施しているのか。
- 事務局： 基本計画の策定や見直しの際に実施しており、給水契約世帯に無作為抽出で実施している。今回は、紙面と、インターネットによる回答受付を行った。
- D 委員： 計画素案の26ページに記載のある、「質の高い上下水道サービス」のイメージがわからない。「安心で強靱な」というような表現のほうが、他の文章との整合性が図れるのではないか。
- E 委員： 私はこういう表現もあるのかなと思う。インフラの場合、海外と比較した日本の特徴ということで、日本政府や国土交通省では「質の高いインフラ」等と表現しているという記憶がある。
- 座長： 他事業者の例も紹介いただいたが、具体的な方針を表現できる言い回しになるよう、検討いただければと思う。
- D 委員： 計画素案の4ページ、計画フレーム内の生活排水処理人口の数値は合併処理浄化槽を除いたものとなっているが、一方33ページの生活排水処理率では合併処理浄化槽が含まれている。
- 事務局： 市民に理解いただけるよう、表記の仕方を整理する。
- D 委員： 提案だが、計画素案47ページの「宮の水サポーター」について、若者が水道をあまり利用しないという側面があるため、若者を巻き込むような活動をしてほしい。
- B 委員： 水の品質について、上下水道局のお客様満足度は7割程度だが、水質の面ではおいしい水の基準は満たしているという評価の差があるため、この差を縮める努力が必要ではないか。

事務局： お客様満足度は料金・サービス等の事業も対象となっている。おいしい水を作っているというPRが必要と考えている。駅東口に設置した宮の泉（給水スポット）等も活用しながら伝えていく。

事務局： A委員から質問のあった民有地における雨水貯留施設について、年間300基を目指すといったが、その場合、約37m³、5年間で185m³のため、25mプール約半分の約半分となる。現状、補助対象である市街化区域13万件に対して、1%ほどの設置率であるため、さらなる設置を進めていく。

事務局： 貯留タンクに貯める量以外に、浸透ますの浸透効果もある。効果については試算している段階だが、敷地の6割程度に対して流出抑制効果があると期待している。今後、推進計画の中に効果を反映できるように研究していく。

B委員： 貯留タンクについて、うちは2基設置している。水の節約にもなって便利だが、なぜ広まらないのか。こういうことに便利に使えますよというのをアピールするとよいと思う。

座長： 貯留タンクの設置者自身の利益にもつながるということを、広く周知していただければと思う。

3 その他

第7回懇話会 令和5年2月15日（水）開催予定

4 閉会